

第3回 見附市立学校配置等検討委員会 会議録

日 時：令和6年7月29日(月) 午後6時30分

会 場：見附市役所 大会議室

出席委員：17人

遠藤委員、保科委員、坂田委員、山田委員、鈴木委員、梅本委員、井上委員、大橋委員、三本委員、目黒委員、武石委員、岡山委員、後藤委員、今井委員、小山委員、小林委員、小尾委員

欠席委員：1人

高井委員

事務局：渡邊教育長、近藤教育部長兼教育総務課長、佐藤学校教育課長

議事概要

1 開会

【事務局】

ただいまより、第3回見附市立学校配置等検討委員会を開会いたします。次第に沿って進めてまいります。

2 教育長あいさつ

【事務局】

次第2、開会にあたり、見附市教育委員会教育長の渡邊茂夫よりご挨拶申し上げます。

【渡邊教育長】

皆さんこんばんは。大変ご多用の中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

これから第3回の検討委員会が行われるということになるわけですが、本日の検討委員会では前回、委員長様のご提案によりグループ協議ということで、このような配置をさせていただいております。

協議題並びに協議を進めるに当たりましての視点につきましても、また改めて委員長様よりお示しいただくことをよろしくお願いいたします。

これまで2回検討委員会をさせていただいたところでございます。その2回の内容を踏まえまして、見附市の子どもたちのためのより良い学校教育の場、小中学校、小学校、中学校の場づくりに向けまして、いよいよ本格的に議論をしていただくということになるわけです。

その際皆様をお願いしたいのは、グループ協議のはじめから「もうこれしかないんだ」

というような思いでご意見を出していただくのではなくて、ある意味極端と思えるようなご意見、あるいは実現はちょっと難しいかもしれないなというようなものもあるかと思いますが、こういったものも含めまして、様々な可能性を考慮しながら、幅広くご意見を出していただきたいというのが一つ目のお願いです。

もう一点、またこれまでお願いしてまいりましたことの繰り返しにはなりますけれども、やはり見附市の良さの一つはコンパクトシティであるということだというふうに理解しております。このことをベースにして、その上で小学校は市全体としてどのような配置を目指していくといいのか。また、中学校は市全体として、どのような配置を目指していくといいのか。何よりも子どもたちのことを第一に考えていただきまして、見附市全体から考えられる配置等について大胆に発想して、ご意見をいただければありがたいなというふうに思っているところでございます。

これからの検討委員会が有意義な議論の場となりますようお願い申し上げまして、簡単でございますが、あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

【事務局】

それでは、次第3の議事に移ります前に出欠を報告いたします。

本日の委員会は、委員全18名のうち、現時点で16名の皆様からご出席をいただいております。過半数の出席に達しておりますので、委員会設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは議事に移ります。ここからの議事進行は遠藤委員長にお引き受けいただきます。それでは遠藤委員長よろしくようお願いいたします。

【委員長】

それでは皆さんお疲れ様です。

パリオリンピックが始まりましたよね。早く終わって見たいっていうのもあると思いますが、この会の中身も非常に大事でございますので、ぜひご支援をいただけるとありがたいと思っています。

実は私、東京オリンピックのチケットが当たりましたですね、幻の東京オリンピックですけど。びっくりしましたけれど、でも私は自分で東京オリンピックのそのチケットを申し込むときに全部、種目は4つ5つくらいは申し込んだような気がするのですが、そのうちのたった1つだけ当たったんです。どの試合も準決勝か3位決定戦、それをリクエストします。したがって、どこのチームが当たるかっていうのは最後の最後までその日にならないとわからないような競技もあったんですけど、なぜそうかという、金メダル銀メダルは大体メダルが確定してるんで、そこら辺の選手の落ち着きってあるんですね。ところがメダルを持って帰れるかどうかという瀬戸際にいるその3位決定

戦なんかは、必死の形相です。どの種目もです。私はその種目の中に一番なんというか迫力を感じるっていうか、そういうのがあってそこにこだわっているんです。

ちなみに無事チケットを得たのはグラウンドホッケーでした。グラウンドホッケーというとはわからない方もいらっしゃると思いますが、グラウンドでするホッケーです。私、自分の生まれた町の町民スポーツがホッケーだったんです。誰に言ってもアイスホッケーのイメージしかないっていうのがその競技でした。日向でやっても日陰のスポーツみたいなんですよ。そんなイメージがある種目です。ですがそのホッケーが当たったときにこれはぜひまた見に行きたいなというふうに思っていたんですが、コロナ過で断念せざるを得ず、「チケットは自分でダウンロードして記念でお持ちください。持っててください。お金は返金します。」みたいな処理をさせていただきました。

(18 : 40 委員 1 名が遅れて出席)

今日はですね、実はこの本題に入る前にひとつちょっと見ていただきたいのがあります。これは三条のパール金属スタジアム球場です。いい球場ですね。実はこれ、今年の高校野球の 2 回戦になるのでしょうか。1 試合まず見ました。見た証拠はここに今チケットがあるんですけど、チケット 2 枚あるんですけど、入場料 800 円で見してきました。まずは、ちょっとこのチームのことを言う前に、実際に見てもらうのが一番だと思います。

- 試合映像を視聴 -

9 回裏です。サヨナラゲームです。

実は校歌が流れましたが、今ちょっとおやっと思いませんでしたか。長かったですよね。実はこれ 5 校連合チームです。5 つの高校の部員が集まって 1 つのチームを作って参加しています。今、新潟県の高校野球もこういう連合チームの存在を大事にして、そして全部で今年は 5 チームくらいあったんでしょうかね。

私が見に行った試合は、意図的に見に行った試合は、実は連合チーム対連合チームの試合だったんです。合計 7 校です。対戦相手は十日町総合と塩沢商工、その 2 校連合です。5 校連合が 2 校連合に勝ったという試合です。これがトーナメント表ですね。ここですね。

加茂農林・正徳館・栃尾・分水・三条商業で、分水高校は部員が 1 人しかいません。三条商業は 2 人だという話でした。あと加茂農林・正徳館・栃尾で 5 校連合。もう片方は十日町総合と塩沢商工、この連合が戦いました。翌日の見出しが、これは朝日新聞ですけど「連合対決サヨナラ決着」ということで大変、塩沢商工のピッチャーが頑張っていたんですけども、5 校連合が勝ったということです。

はい。これが、あいさつするときの、これ試合が終わった後ですね、だからカラフルなユニフォームだっていうのは全部自分の学校のユニフォームで参加してるからです。当然、連合チーム用のユニフォームを作るだけの財源はないと思いますので、こういう形で参加しています。

ここの、実はグラウンド整備、この日の整備をしたのは帝京長岡の生徒でした。黄色い衣服は全部、帝京高校の生徒です。

この試合ですね。途中5回まで1対1、そして7回表に逆転し、3対2になりました。そして、9回の、さっきのビデオ見ていただきました。こういう形ですね。

このときに私が興味を持ったもう1つは、実はこの応援席のことだったんです。これ5校チームの応援団です。残念ながら、5校の生徒が全ていたかっていうのは、私は確認できませんでしたが、5校合わさったチームの応援をどんなふうに行っているのかな、親御さんたちはどんなふうな応援の仕方をするのかなと思ったんですが、この日はこれだけの人数の応援でしたけれど、とても声がそろっていました。素晴らしいなっていうふうに思いました。どこで練習したのかなっていうのは、私も当然聞けませんでしたけれども親御さんたちがチームを組んで、選手の名前を呼んだり励ましたりっていう光景がありました。

それからこれは2校連合の方の応援団席です。同じように十日町塩沢の保護者の皆さんがこういう形で参加していました。まずこれを私自身は見に行きました。

このときに今年も高校野球は入場料800円なんですけど、こういうふうにグラウンド整備や会場設営、進行をサポートしている高校生とボランティアの大人たちがいるわけですが、800円っていうとたかだか役員1人の弁当代くらいにしかありません。ですがそういうことであれば喜んでっていうような気持ちも私自身は持ちました。

結果的にはスコアはこういう形だったんですね、はい。勝った5校連合のチームなんですけど、次の試合が確か関根学園だったと思います。28対0でコールド負けです。ですがこの7校の高校生にとってはもうかけがえのない試合ということに改めて感じることもあります。

一方ですね、ちょっとこれ見てください。私時間があって、皆さんお仕事ばかりしてるのに申し訳ないですね。エコスタに、今度は準決勝に行きました。さっきそのグラウンド整備で頑張っていた帝京高校の応援席の脇に私自身はちょっと最初座って、凄まじい応援すごいなと思いました。楽器ももうすごい立派な楽器でした。準決勝ですから応援はある程度来るのかなと思ったんですが、本当に大応援団でした。相手はですねこのときは新発田南高校でした。公立学校で唯一残った学校と帝京長岡のチームとの戦い、準決勝でした。

今この帝京長岡の選手たちなんですけど、実は1人も新潟県内の選手がいません。はい、こういうふうな様子になっています。私さっきの連合チームとこういう勝ち上がってここまで来た高校生を見たときに、当然、参加の形はいろいろあるのかもしれないけれど、すごくみんな一生懸命やって舞台を与えられていたんだなって感じました。

ただ今のオリンピックもそうですけど、勝つ人がいれば、必ず負ける人がいるんで、やっぱり負けたことを大事にできるかどうか、これスポーツではよく今日という日は大事だというようなことを言われますけどそういうことなのかな。今後の自分のキャリア

形成というか、キャリア発達に役立てられるような活動であってほしいなということを改めて感じました。

対照的な2試合をちょっと紹介しました。これ、でも高校なんですけど、今超少子化です。なので今後のこういう高校野球のあり方がどういうふうに変化しているのかっていうのはわかりませんが、きっと運営する側の方はいろいろまた心配事が、こういう面での心配事は増えていくのかなというふうに思うところです。

ちょっと全然検討委員会と関係ないっていうことではないんですが、私自身は皆さん方にこういう舞台があったんだということをご紹介したくて持ってきました。これは一旦閉じます。

－ 本日の議題 －

では今日の本題に行きたいと思います。

前回のときに今日の話し合いの進め方ですね、どうするかっていうのをちょっと提案しましたが、今日この後はグループワークをやっていただきたいと思います。

この会に託された諮問理由である「見附市立小中学校の目指すべき教育環境を整備し、充実した学校教育の実現に資するための諮問事項」として、この見附市における市立小中学校の適正規模・適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策の検討課題を探る。これが私達に託されていることですので、当然これまでの回に皆さま方と確認したように、今、見附市で取り組んでいる小中学校の教育を中心としたこの教育環境の在り方について、当然見附市は頑張っていますので良いことは良いとしてきちんと認識して、これからさらに教育効果をうみ出すっていうその視点でもってアイデアとか手だてを考えていく必要がある。そのためのグループ協議である。そういうふうに認識してほしいというふうに思います。

今日はそういう意味で委員各テーブルとも委員の皆さんの、これは多分もうちょっと後で言いますが、これまでのいろいろ考えてきたことや自分自身の中で提案したいようなことがあれば、それを遠慮なく付箋に書いていただきたいと思いますし、それをもとにここの検討課題を見つける手がかりにしていきたいというふうに思います。したがって今日1回限りでは到底できないので、今日の会と次の会議でグループの中のメンバーを変えながら議論を深めていきたいというふうに思っています。

一つだけ確認しておいてください。まず各委員の問題意識の所在とその解決のための方策がどちらの校種を意図しているかわかるようにしたいと思っています。今作業シートも上がっていますが、使う付箋の色はまず黄色は中学校、ピンクは小学校としてお使いください。いいでしょうか。よろしくお願いします。

それからこれも確認です。私達がいただいている諮問理由の中で、少子化のことはもう大前提になっておりますが、大事な学校教育の視点である児童生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い協力し、切磋琢磨しながら児童一人ひとりが資質能力を伸ばしていくことが重要だ。その一方で、児童生徒一人ひとりの多様性に対応できる環境作

りも必要です。

今学校は「個別最適な学び」「集団的な学び」そういったような点からどこの学校でも工夫を加えています。今後の教育環境の変化のことも考慮しながら、教育活動により一層の活性化を目指して、見附の子どもたちにとって目指すべき教育環境を支援するために、ということで私達は最終的に答申にたどり着く必要があるということです。

作業用紙はこのようなものをあげてありますが、ちょっと確認、前回の会の終わりに私の方で説明させてもらいましたが、1か月前でしたんでちょっと改めてお話ししていきたいと思います。

まず、緑色のバーがありますね。横に引かれたバーがありますが、そのバーは子どもたちにですね、子どもたちの多様性に対応できる教育環境という視点で考えます。片側が自分の考えが、地域学校事情が優先している、どちらかといえばそういうこと。あるいはどちらかといえば子どもの活動が優先している、そういうふうな物差しを一応横軸として設けます。

それから縦軸、青い方ですね。青い方は今度は公共度、児童生徒にとって公平で良好な教育環境。今学校で課題でもありますし、今後ますますの工夫も必要なんですけど、ITのこと、いじめ不登校対策のことをはじめ、本質的な教育課題に対応したコストが必要になっています。そんな中で、公教育ですので公平で良好な教育環境を作るということは使命になります。そういったような面から今学校で取り組んでいること、見附市の良さっていうふうなものが優先するのか、あるいは地域を含む教育環境が優先するのかというようなことで物差しを作ってみました。ということで大きくは皆さんのテーブルにあるような作業シートを作ってみました。

あとですね、これは特に学校ですから、学校ってやっぱり集団が基本なんです。集団による教育の効果っていうのは、これはもう諸外国から認められているということで、日本の教育の優れた面でもあるんですが、今改めてこういう時代になって問い直さなくてはいけないのは、本当に集団になるのがもう当たり前だと思っていないかという逆の問いなんです。

なんでかっていうと、今こういう社会状況になっても、実はいじめとか不登校の数が減っているわけではありません。先生方が一生懸命取り組んでくださっています。それから社会も応援しています。

でも減ってはいません。なぜかっていう背景の一つに実は社会になかなか馴染めない、適応できないっていう子どもたちの存在がいるっていうことですね。

でもその子たちを切り捨てるっていう社会文化ではなくて、どういうふうにもその子たちも含めて公教育っていうことを保障してあげられるかということのを学校は考えてあげなきゃいけないんですが、そんなときにこの教育環境とか指導体制、学校では指導体制とか学校運営ってとっても大事なことです。これについて今、校長先生もいらっしゃいますが、深いところは触れる必要ないと思いますが視点としてはきちんと設けてあると

いうことはご承知おきください。

今回、小中学校を分けるっていうふうに言ったのは、実はそれもあるんですけど、分けるっていうか小中学校を校種を意識して考えてみようっていうのは、例えばここに一番上の部分にあるようにクラス替えが可能かどうかという物差し。それはですね、様々な経験ができるようにとか、競い合いながら成長できるとか、そういうようなことが理由としてはあげられるかもしれません。

それから指導体制、先生方も授業とかですね、共同研究ができる規模が必要だと言われてますし、特に中学校は全ての教科専門の教員が配置できる規模がやっぱり大切になってきます。

それから、子どもと教員が向き合って、個々の子どももよく理解できる規模、これが指導体制ではありますが、現場の先生方はこういう面でそれぞれの学校に応じた工夫をしているということは事実かと思えます。

それから学校運営ですね。保護者の負担が課題ならない。保護者の負担というのは経済的負担も含めてのことになります。

それから教員もいろんな面で研修に出かけたりしなきゃいけません、そういうのをきちんとサポートできているかというようなこと。

それから教室の割り当てですね。これが無理なくできるというようなこと。

主にはこういうふうなことが挙げられていると思います。

グループ協議の進め方について簡単に言います。今暫定的に時間を示してありますが、皆さんの方の進捗状況を見ながら時間変更はしたいと思っています。途中で休憩を1回入れますのでご承知おきください。

まず、これまでのこの会合やあるいは視察に行かれた委員の皆さんも多くいらっしゃいますが、視察を通して関心を持っていること、提案したいことなど、各自が自分の考えを付箋に書いてください。言ったようにピンクが小学校、黄色が中学校です。1枚に1つの問題意識を書いてください。というか、見出しで結構です。何々についてとかですね、そういう書き方でも構いません。これを大体最初に取りたいと思います。

その後ですね、今日また改めてですね、自己紹介してください。これ簡単で結構ですが、特に付箋で書いたようことを発表してもらいたいというふうに思います。

実はこの発表を始めましょうというところまでは、各テーブルに教育委員会の皆さんからついてもらいますんで、その方が進行していただくと。その後ですね、各グループで代表者を1名決めてください。ここから先はその方が進行役となります。

発表し終わった委員から、今自分が付箋に示したものは、その作業シートの図でいうと、どこら辺に貼るのが一番いいかなということを考えながら、これ仮に間違っていると当たっているということではなくて、自分がこういうふう考えられるかなでいいです。貼っておいていただきたいと思います。作業シートに貼ってください。各自の判断で結構です。

それぞれの委員が発表したらですね、1人1人でももちろん構いませんが、質疑意見交換も行ってください。ここは時間をじっくり取りたいと思います。

そして各グループのその代表者になった人ですね、進行役になった人を中心に付箋の分布状況を話題にして、ちょっとここはこういうふうなことかな、といったような感じで分類整理していただけるとありがたいなと思います。まずここまでをやっていただいて、時間があれば最後に参加感想の交流をして、一応グループ協議の第一段階を終わりにしたいと思います。そして休憩に入りたいと思います。

その後ですが、今度は結果発表ですね。グループ協議のことについて、各グループここを注意してください。代表者による発表ですが、発表者は、グループ代表の人以外の委員から選んでください。いいでしょうか。進行役をやった委員ではありません。各グループ4分くらいになると思いますが、発表していただけるとありがたいと思っています。その際ですね、その作業シートが全員見れるようにですね、そこら辺をうまくボードを使ってやっていきたいと思っています。こちらにもボードありますが、ご協力をお願いします。

その説明の中で対象校種、課題ととらえたこと、その要因として考えられること、そのための解決策、これらを骨子としながら発表いただくと大変ありがたいと思います。もし補足したいことがあったら、同じテーブルの委員の皆さんはどんどん付け加えをお願いします。

それから、時間の加減ですが、全体質疑と意見交換も時間を取りたいと思います。

今日のグループ協議の大体の傾向性について私の方でまとめさせていただきたいと思いますが、それを元に次回ですね、メンバーを変えて改めて同じ話題でもってしてみたいなというふうに思っています。

その先はどうなるのかというのを若干意識しておきたいんですが、9月の会が終わった後ですね。やっぱり小中学校別に見出した検討課題について対応策を協議していく段階に入っていくかと思っています。

ただそれが、この検討課題が諮問回答になるのではなくて、実現可能性のある選択肢という表現をとらせてもらいましたが、以降の検討委員会の中でさらに協議をし話題にし、意見を聞き、場合によって加除修正し、強化し、そんなことをしながらどういうふうに検討課題として明示できるかっていうあたりをはっきりさせていきたいというふうに思っております。大体これが流れでございます。

これからこの作業シートをもとにしてグループ協議をやっていきたいと思います。

では、私も各グループを回りますので、質問等あれば、そのときにまた出していただいて結構です。取り急ぎですね、教育委員会の皆さん、各テーブルに着いていただいて、話し合いの方をスタートしていただくとありがたいと思います。これからよろしくをお願いします。

- ここからグループワーク -

それでは一応これから8時20分まで休憩時間にしたいと思います。

お願いなのですが、これから発表に移らせていただきますが、グループ協議の発表については、両方にボードがありますが、それに付箋が張ってある模造紙を張ったままの状態の説明して頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

発表順については、私の主観で申し訳ないですが、作業進度から、中身から次のような順番にさせてください。一番最初の発表をCグループ、その後あとBグループ、その後あとAグループ、その後あとDグループ。C B A Dの順で発表をよろしくお願いします。それではしばらく休憩時間にしたいと思います。

- 20:10 ~ 20:20 休憩 -

それでは再開したいと思います。グループ協議は大変ありがとうございました。

各グループでどんなことが話し合われたかをこれからの時間の中で確かめながら自分のグループと他のグループの差異であるとか、それからこういう傾向性があるとかを、さらに整理してみたいと思います。よろしくお願いします。

それでCグループはどなたですか。委員さんですね。お願いしたいんですけど。ちょっと見づらいと思いますんで、委員の皆さんどうぞ。それから傍聴の皆さんもどうぞ。ちょっと集まっていたいただいて、後ろの人はですね、付箋も見えると良いと思いますんで、ぜひ立って近づいてください。お願いします。

(発表 Cグループ)

Cグループの発表をさせていただきます。

Cグループの方は出た意見を大きく分けたら「見附らしさ」と「集約化」。これちょっと言葉が強いんですが、「集約化」と「先生が本来の力を引き出すとか発揮する」と「子育て環境の充実」という四つにわかれまして。

その繋がりとして私どもの意見としてまとめたのは、まず例えば小規模校はみんな仲良いとか、落ち着いた環境とか、あとプレイラボとかわくわく体験塾とか、そういう見附らしさは大事にしていきたい。見附らしさは大事にしていきたいよねっていうことを一つ踏まえた上で、ただ今日の資料をいただくと、学校からの要望が施設、設備面とか特に要望が多かったり、学校ごとにプールって必要なんだろうかとか、校舎の老朽化は南中とか今町中とか進んでたよね見学に行くと、というふうに考えると、やっぱり今の学校全て維持してそこに全てお金をかけてというのはなかなか難しいのかもしれないね。

なので、ある程度段階的になるかもしれないけれど、共同で使うとか、一緒に何かするとか、もっと先に行くと統合等々も出てきてますけれど、そういう流れもやっぱり必

要かもしれない。

統合していくと、例えば小学校8校を4校にすると、先生方は定員が増えるので先生の負担も軽くなるかもしれない。軽くなると学校には様々に要求されている安心安全な学校作りとか、自己肯定感を育む学校とか体力をつくる学校とか、部活の問題とか、そういうふうなのが今よりも多い先生、定数の中で先生が働くことができるので、本来の力をより引き出して、それが発揮できる環境ができるかもしれないというのがこのままとまりです。見附らしさを大事にしつつも、そういう流れもやっぱり大事ですね。

一方で、子どもたちはそういうふうにして減っていったりするんだけど、子育て環境の充実として、子育て向けの価格、分譲とか低価格の若い世代への住宅の提供とか、そういう見附に住んでいる、住んで子育てをする、してみたいという方も増やしていくような政策と、そういうのも大事にしていくことを併せてやっていくことが必要じゃないかと。ずっと減る一方ではなくてこういうふうな環境は当然充実していかななくちゃいけないっていうのをもっと合わせて考えていくのが大切じゃないかというふうな考えが出ました。以上です。

【委員長】

委員ありがとうございました。C グループの皆さん大変ありがとうございました。キーワードをうまく拾っていただきましてありがとうございました。

他のグループの質問、他のグループからの質問を受けようかと思っていたんですが、他のグループの話を聞いた上で、全体としてちょっと受けてみたいと思います。大変ありがとうございました。

続きまして B グループお願いできますか。はい。ここは委員さんが発表されますか。よろしくをお願いします。

(発表 B グループ)

はい、それでは B グループです。C グループさんのように綺麗にまとめるところまではいきませんでした。

ただ今回、我々のメンバーは新潟小学区、葛巻小学区、南中学区、見附小学区といろんな地域の声が子どもの数が減ってることで改めて課題が見える化したねということになりました。

ですからまとまっていらないんですが課題はやっぱり今までも出てきたことなんですけど、もう一度共有することができました。

例えば保護者とかの役員の割り当てがどんどん増えてきてしまっているよねとか、それから部活動ももちろんそうなんですけど、大会に出場するためには保護者負担がどんどん増えてるよねとか、それからバスの確保も最終的に喫緊の課題なんですけれども、非常にその辺でお金がかかったり確保が難しいねとか、そんなたくさんの課題ができまし

た。その対応策的な部分はまだ出てないんですけども、いずれにしても適正規模化が進むことである程度こう、見えてくる部分があるかなっていうことが出てまいりました。

具体的な部分なんですけれども、例えばこの移動手段っていうのがあるんですが、どんな活動をしたくても、今本当にバスの確保が苦しいんです。お金も高くなってきていて、校外にせっかく見附はいい素材がたくさんあるのに、出かけたくても出かけられないっていう現状、先ほどの部活に関してもそうです。

それからこちらの方はやっぱり教員の数が、児童数が減って教員の数が減っていくと、それによって教科を教える免許を持ってない方も教えざるを得ないとか、複数教科を教える。これは中学校としてはどうなんだろうかというようなこともありました。より質の高い授業をするにも教員の一定数の確保が必要だろうというのが出ました。

最終的に、こちらになるんですけども、見附の良さで、小学校に関してはその地域の特色を生かした教育をすごくやっている。これは大事にしていきたい。ただ一方で中学校の場合は地域の特色ももちろんあるんだけど見附市の場合は本当に市を挙げて良質な教育をやってきていますので、やはり人数が減っていくと中学校としてはどうなんだろうかと、小学校はある程度規模が減ってもその良さがあるかもしれないけれども、中学校に関してはやっぱりある程度、質の確保、これが重要なのではないかというのが出されていきました。

それから、それにも伴って例えば見附小なんかもそうですが中学校が2つにわかれているというのもありますので、今でも弾力的な運用を認めていただいているんですが、中学校に関しても、市全体でもコンパクトシティの良さを生かして弾力的に学区を見ていってもいいんじゃないかというような話も出させていただきました。

とても全体たくさん出たんですが、まとめるところまでいってませんでしたけれど、できませんでしたけど、以上ということで。

【委員長】

はい、Bグループありがとうございます。Bグループの皆さん補足ありますか。よろしいですか。はい。本当にありがとうございます。

それではAグループの発表に移ってよろしいですか。はい、すいません、よろしくお願いします。

(発表 Aグループ)

Aグループの方を発表させていただきます。

Aグループの方もですね、いろいろ意見が出てまとまっているようでまとまってないような感じもするんですが、大枠で言うとですね、まず見附市の良さが優先、子どもの活動が優先、社会環境への対応が優先とか学校の対応が優先とか、そういうそれぞれわか

れてですね。

まず見附市の良さ。今現在ある良さっていうのは、各学校、伝統的なものをどうやって繋いでいくかというのが問題ではないか。そしてやっぱり各学校だけで終わってしまうのはもったいない。それをどうにか見附市全体で共有できるような仕組みができればなという意見が出ました。そうするとやっぱり地域の方々も、一体となって協力できるんじゃないかというふうに思って、わけさせてもらいました。

あとオープンスクールについての活性化ですね。もうちょっといい方法があるんじゃないかという意見が出ました。

具体的には、例えばこういった伝統的なものに繋がってきますし、いろいろ共有する場をですね、もう少し設けられたらいいんじゃないかと思います。

あとはですね、学校の事情とか地域の事情とかなんですけれども、いろんな資料を、学校の回答とか見ると、やっぱりいろいろ意見出ますが、職員が足りない、環境の維持ができていないという意見が多々出ていましたし。

あとはそういったものを解消するためにAグループで出た案がですね、学校間で例えば授業の共有じゃないですけども、例えばなんですけど英語の授業を違う学校で同じ学年で受けさせてもらう。そうすると教員の数がそこで足りるんじゃないかと、いろんなそういう繋がりをつくることによって先生の不足とか、解消できるんでは。移動手段の問題もあるんですけども解消できるんじゃないかと。それによって生徒同士のコミュニケーションの場も増えるんじゃないか、そう考えております。

あと、この黄色い中学生のやっぱり問題提起ということで偏ってしまったんですけどもいくら小学校、小学生のうちでコミュニケーションを図ったとしても、それを中学校に上がった段階で維持できるのかというのをちょっと問題提起として挙げさせてもらいました。そんな感じでございます。

【委員長】

大変ありがとうございました。Aグループの皆さんは付け足しはございますか。よろしいですか。ないですか。はい。

(委員による補足)

一保護者からの希望ということで。子どもたちに中学校とか小学校のときに、もう今、なかなか競い合うことがなかったりとか、誰が一番になるとかをしなかったりっていう部分も、みんなが頑張ってるからとか、そういう部分もわからなくはないですけど、やっぱり競い合う勝ち負けとかもわかってほしいですし、それでつらい思いをしてそこから立ち上がったりとか、そういった部分もできる子になってほしいなっていうふうにも思うので、思いっきりこう、中学校のときとかに悔しい思いをたくさんしたり、それが青春になって、「ああ、あのときつらかったけど頑張ってよかったな」とかいうふうな思いもたくさんしてほしいなって、そういう環境ができる学校であってほしいなと思っ

ています。はい。

【委員長】

はい。委員ありがとうございました。

はい。それでは最後になって申し訳ありませんでした。Dグループお願いいたします。

はい。委員さん発表できますか。はい、よろしく申し上げます。

(発表 Dグループ)

ではDグループの意見を発表します。

Dグループ、ちょっと意見の数も少ないんですけども、改めて見ますとまず縦軸でいうと、ほとんどが「見附市の良さが優先」に集中しています。あと横軸で見てもまんべんなくというよりは、「子どもの活動が優先」に集中している。そういうことで、もう見附市ファーストであり子どもファーストの意見に終始したような流れでした。

その中でも、ピンクの小学校なんですけれども、小学校に関しては、やはり小規模校は非常に魅力的には映りました。その小規模校に関してその魅力をもっと高めていくにはどうしたらいいかという意見と、そうは言っても小規模校でもデメリットはあるのでそこを補うにはどのようにしていったらいいかというような話をしてきました。

小規模校のメリットとしてあるのは、皆さん考えているような細かい授業ができるとかありますけれども、そこをもっと充実させていくためには、例えば行きたい学校に小規模を選ぶようなインパクトのある魅力をつくった方がいいのではないかな。例えば授業の中にプログラミングを入れるですとか、英会話を入れるですとか、外部講師を招いて授業をしてもらう。要は小規模校の魅力をさらに引き出してもらって、小規模校をあえて選んでもらう学校づくりにしていってはどうだろうかという意見です。

デメリットに関してはやはり生徒数が圧倒的に少ないです。

そんな中で、ある程度の人数で多様な人間関係の中で切磋琢磨した環境が、というのはどうしても実現するのは難しいです。そうであれば、小規模校同士の交流は今やられていますけれども、大規模校との交流があってもいいんじゃないかという意見が出ました。確かに児童数が少なくデメリットが目立ちますけれども、こういうことで改善できるんじゃないかということです。

また、現状ですけれども小規模学区の生徒は大規模学区を選べないですけど、そこはぜひ大規模校を希望できるようにしていただきたいという意見です。

小学校に関してはこのような意見出ました。

中学校に関してもほぼ「見附市の良さ」と「子どもの活動」優先なんですけれども、中学校になりますと社会の環境への対応という意見が出てきています。

社会の対応の面としてはまず通学です。中学校は、遠い場合は自転車で通学できるようにですとか、学校から自宅への距離がある中での交通面での不便が多い。ここは先ほ

ど意見も出ましたけれども、やはり見附市の特徴であるコンパクトシティの良さを最大限に活かして何とか少ない経費でぜひ子どもたちが安全に通学できるような仕組みを作っていただければという意見です。

あとは中学に関しては、そもそもになってくるんですけど、小学校でこれだけやっているのであれば、いっそ特色がある小規模中学校があってもいいんじゃないかという意見が出ました。ただ、高校で大人数になるので、中学校できるだけ人数が確保できるようにまとめた方がよいという意見も対極ですが出ています。

また、もう一つあるのが今、見附市内ですと、西中がどんどん生徒が増えている状態ですけれども、そもそも4つの中学の生徒数を、例えば学区の見直しなどによって平準化することって意味があるんだろうか。それをやるんだったらもう減っているところは減っているっていうふうにして、増えた、増えるであろう西中に関しては、いろいろ考えて無理に平準化することはあまり意味がないんじゃないかというような意見も出ております。

あとはそのほかでは先日、西中を見に行っただ中では老朽化している校舎が多い。維持費とかが非常にかかるのでそこも今後の懸念ということです。

Dグループの意見に関しては以上です。

【委員長】

はい。Dグループありがとうございました。Dグループの委員の皆さん、つけ足しありますか。いかがでしょう。よろしいですか。

はい。それでは、改めて皆さん、互いの健闘を拍手でもってねぎらいたいと思います。じゃあ拍手。ありがとうございました。

(委員長まとめ)

ちょっとこちらを見ていただけますか。

一応ちょっと私、グループ協議とそれから今の発表を聞いて、総括することは当然できませんけれど、次に繋げるためには、ちょっと皆さんと認識を共有しておきたいと思います。

今回は横軸縦軸で、この児童生徒の多様性っていうのはいろんな意味が含まれていて、1人1人に、要するにしっかりと向き合うという事は基本あるんですね。

そうしますと昔であればその集団に右ならえって言ったら右の方を向かせて、そのまま前に行けばいいっていう、そういう短絡的な考え方もできるかもしれませんが、そうではなくて、1人1人がどういうふうな状況にあるのか、家庭環境も含めてですね、そういうものであるとか、あるいは勉強の中身でも興味関心がこの子はどういうところにあるのか、どういうふうなことに対応できるかどうか、そういったようなことまで含まれるわけです。もちろん男女のこともありますし、人権のこともあります。そうい

ったようないろんな意味での多様性を捉えてほしいなというふうなことがひとつ。

それから縦軸の方ですが、これ一応、公教育ですので学校によってもし大きな差異があるとすれば、それは是正が図られるべきだと思います。公立校ですので。そのような意味で、教育環境というのはやっぱり広く理解を求めてという、A という学校と B という学校で極端な差があってははいけませんし、逆に言うと差ではなくて特色として位置付けていけるようにしていくのが大事だというふうに思います。

今日黄色い付箋が集中的に集まってところもありますし、それから局所的にですね、この座標軸の1ヶ所に集中したっていうのはあるかもしれません。それはそれで全く構わないんですが、今回はこういうふうにして課題をひろって、課題っていうか皆さんの問題意識がどこにあるのかということを集めながら今くくってみました。

ただしこの先に、次回になりますけど、私自身の反省なんですけど、もしこういう考え方でいったとしてこの方法はどうすれば克服とか改善ができるのかということを考えるために、これは緊急度があるんだろうか、例えば、校舎が老朽化している、確かに雨漏りがしていれば、当然早めに治さなきゃいけないわけです。命に関わるようなことはもうとても大事なことですよね。そういう緊急のことがあります。

それから今日も見附市の良さ、これをまた再認識たくさんしていただいた気がします。とても素晴らしい意見ばかりだったと思うんですが、その良さがあるとしたら今後見附市の子どもがさらによりよい活動の中で学校生活を楽しめるようにするためには、こういうことが必要なんじゃないかっていうその重要度ですね。

つまり緊急性と重要度という物差しを加えながら、さらにちょっと検討してみたいなというふうに思いました。

今日いただいたこのシートですね、しばらくは大事に頭において、次回のときにはこのシートを貼った状態でぜひスタートしたいというふうに思いますが、もちろん今日と関連した内容が出るかもしれません。メンバーが違う協議によって新たな視点が生まれるかもしれません。似たようなことでも言い換えれば違うことがあるので、そういったような委員さん方の考えがご自身の中でよりはっきりしてくると大変ありがたいなというふうに思っています。

ちょっと、理屈っぽくて時間かかる手続きを取っている作業かもしれませんが、こういう部分を私自身は大事にしていくのがこの検討委員会の大事なところかというふうに思っておりますし、また本当に課題ってそう簡単には見つからないと思いますし、私もふと今日、交通手段が大変だったら無料バスはどうですか、無人バスはどうですかなんてことをポロッと行ってしまいましたけれど、そういったようなことであつたとしても、お互いにこういう工夫ができるのか、みたいなことをまだまだ考えていってもいいのかと思っております。今日は大変ありがとうございました。

そして次回もこの検討課題ですね、特に課題を見つけるための作戦の一つとして、こういう場をちょっと設けさせてもらいたいというふうに思っておりますのでどうぞよ

ろしくお願いいたします。

冒頭、私が高校野球の連合チームの対戦のビデオ流したのも、10年先はある程度わかるかもしれませんが、15年先20年先になると今の状況ではちょっと読みづらいですね。もっともITの環境なんかも変わってくるのかもしれませんが。それは正直なところ学校現場にいる先生方もなかなか読めないと思います。

ですが今打っておいた方がいい一手が必ずあるような気がします。それを検討委員会の中で見つけていけたらいいなというふうに思っております。次回もどうぞよろしくお願いいたします。

大変今日はありがとうございました。事務局にお返しします。

4 その他

【事務局】

遠藤委員長、大変ありがとうございました。

それでは、次第4その他に移ります。事務局からの事務連絡となります。

皆様にお配りしましたように、冒頭申し上げましたように、第2回検討委員会の会議録を作成しまして、会議資料とともにホームページで公開を開始しております。皆様におかれましても改めて内容をご確認いただき、お気づきの点等ありましたら事務局までご連絡いただければと思います。

次に、次回第4回のお知らせです。第4回委員会は9月下旬、本日同様18時30分からの、また同じ会場、こちら大会議室にて開催したいと考えておりますが、現時点では日程の方はまだ未定となっております。決定次第お知らせいたしますが、次回もメンバーを変えての協議となります。ご都合をお繰り合わせの上なるべくご出席くださいますようよろしくお願いいたします。

事務局からの連絡は以上となります。皆様の方から何かございますでしょうか。

(特に意見なし)

5 閉会

【事務局】

特になければこれで終わりたいと思います。

それでは本日の日程全体を閉じたいと思います。ありがとうございました。

－ 20時45分 閉会 －